

秋の鎌倉 遠足 ハイキング。 行って、楽しんで、話して、 考えよう。[野村総研跡編]

参加者の発言・対話レポート

仮称) みんなのまちづくり協働組合

大きな課題は歩きながら考える、小さくできることで参加する。するとちょっと未来がよくなる。

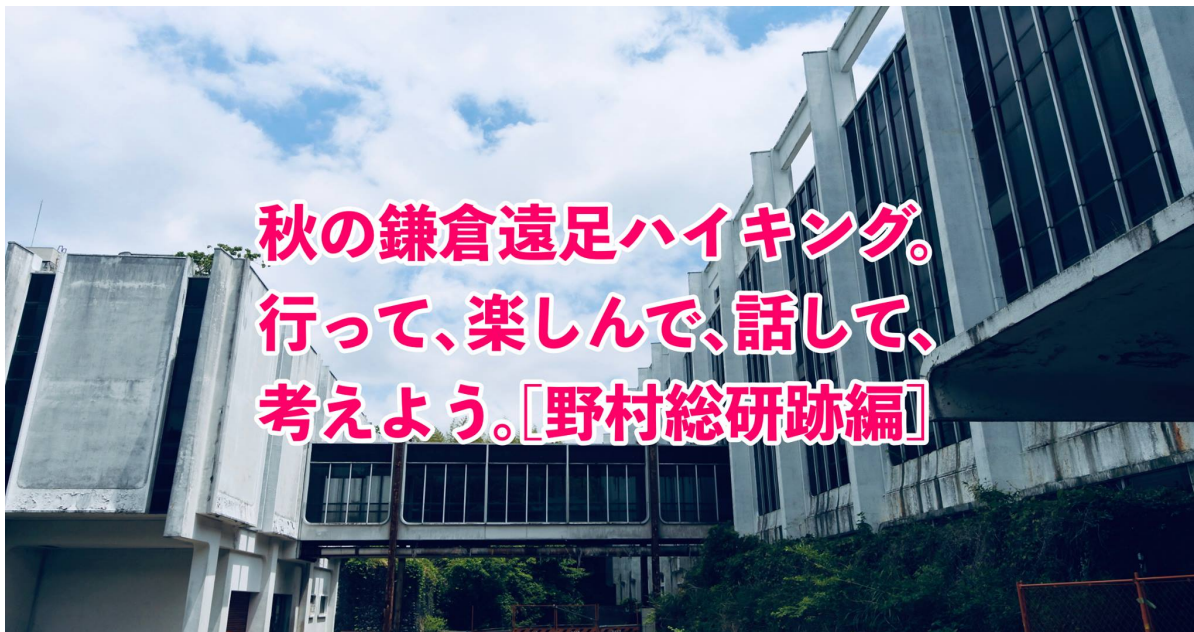
ひとつひとつはバラバラだと力がない。個の意見は受け取る側も困りものだ。

ならば、住民の中のさまざまなプロフェッショナルが集い、立場を超えた人々で磨いてみよう。

未来を良くするために、本気で届けよう。財産をみんなの暮らしに活かそう。

きっと僕らはみんなの声がつくる未来に参加することができる。

2018年10月 SNSにて募集を配信	2
利活用について現地に行って思うこと	5
普段使いをしていた「わたしたち」が思うこと	6
正門が閉鎖された状況から思うこと	7
企業が誘致された時のわたしたちの関わり方を想像する	8
住民による自治・保全是「働く・生きる喜び」につながる	11
勝手に誘致企業の候補・条件を住民から検討してみる	12
今後のプロセスへつなぐ	13
参考公表されている野村総合研究所跡地の歴史・経緯 1965 -	14



2018年10月 SNSにて募集を配信

2018年12月「野村総研跡地の今後の利活用プラン」を住民主体で（勝手に）鎌倉市に提案します。先立って、幾度か現地にハイキングへ。おしゃべりしながらご一緒にませんか。歩きながら考えましょう。

「え、オレのこと?」「アタシのこと?」と、ついうっかり思ったあなた、はい、あなたのことです。普段の日と週末と、何度か開催しますのでご都合よい時にご参加くださいね。どんな企業に来て欲しい?地域にどんなサービスがあると嬉しい?緑あふれる、海の見える、この豊かな場所を、関わる人が誇れる、最高にワクワクする場所にするためにみんなで考えてみませんか。当日出た話題を住民の声として行政に届けます。

野村総研跡地は野村総合研究所が1965年に日本初の本格シンクタンクを目指し創業した地です。15年以上鎌倉に眠っている広大な跡地。2002年に鎌倉市に寄贈され、幾度か話題となりながら利用されない状況が続いています。

歩きながら話したら本音が出てきた。

ふと思ったら話してみよう。少しずつ率直に。自身と周りを知ろう。

ハイキングしながら未来を考える。ふもとにおりたらケーキをいただこう。

まだ少し話してみようじゃないか。

どんな企業に来てもらおうとよいだろう。

どんな共同利用が考えられるだろう。

どんなプロセスと未来がよいだろう

仮称) みんなのまちづくり協働組合

みんなで秋の鎌倉遠足ハイキング。実施概略

実施日	全6回 2018年 10/31(水)、11/7(水)、11/14(水)、11/20(火)、12/1(土)
時間	各日 13:00~16:00
参加者数	のべ57名
参加者年代	5才~60代(鎌倉市・横浜市・埼玉県・千葉県・東京都など)
コース	鎌倉駅-寿福寺-源氏山公園-大仏ハイキングコース-野村総研跡地-タチンダイなど
告知方法	Facebook ページ https://www.facebook.com/events/287058071928894/ <ul style="list-style-type: none">リーチ：7,335 (閲覧者数・2018/12/20 時点)回答：195 (興味あり+参加希望・2018/12/20 時点) ウェブサイト https://think.future-archives.net/ <ul style="list-style-type: none">ユーザー数：219 PV：650 (2018/12/20 時点)意見投稿：11通 (2018/12/20 時点)
主催	仮称) みんなのまちづくり協働組合
共催	くらしのアトリエ & 素玄 SOGEN くらしのアトリエ 私たちは「くらしのアトリエ」です。くらすことが、仕事になる。くらすことで、豊かになる。私たちは知恵と愛と誇りを持って、これからの生き方・暮らし方に取り組みます。ワクワクすることに、楽しく、本気で、誠実に取り組む、オトナコどもたちです。 素玄 SOGEN 私たちは「これから先」のくらしとしごとへ円滑にシフトするためのお手伝いをする、コミュニケーションアーキテクトチーム。生きる力へとつながる様々な仕掛けを発信し、人・生活・仕事・社会のこれらを扱います。暮らしと仕事をつなげてデザインします。くらしのアトリエ、仮称) みんなのまちづくり協働組合の立ち上げと運営を行なっています。
協力	Kamakura Gathering 集い、対話から未来をつくる。私たちはウェブとリアルの2つの場を軸に、鎌倉というフィルターを通して、多くの人たちに伝えるべきコト・モノ・ヒトなどを発信します。誰もが発信者であり、受信者となる、そんなインタラクティブな対話の場を実現します。
メディア掲載	鎌倉経済新聞、J:COM デイリーニュース
派生・関連	2018年 11/19(月) かまくら子育て支援グループ懇談会に、主催メンバー参加 2018年 12/19(月) 参加できなかったメンバーで企画されたハイキングに主催メンバー参加

参加者の発言・対話

問題が起きてからの反対は重苦しいもの。だから、問題が起きる前に能動的に推進しよう。

勝手に進めさせてください、言わせてください、そんな発言から始まるかたちがあっていい。

問題が膨らんでしまった際に必要となるのは、対立ではなく対話する力だ。

利活用について現地に行って思うこと

素晴らしい未来をつくるのも、そうでない未来をつくるのも人。 どうあるべきか、捉え方から変えていくべきだ

—— **野村総研跡地は想像より大きい。長く利活用されていない事実への驚きはさらに大きい**

特に知らなかった人にとってはショッキングだ。かつては、ここでシンクタンクとして多くのことが生み出された場と聞く。今はここで夏にお化け屋敷とかしたら、怖いでしょう。今はそれくらいの廃墟感。そう、クールというよりもバイオハザード的な研究施設。もったいない、残念な気持ちになる。

—— **長く放置されたまま継承された現実が重い。建て直すか、修繕工事とするか**

1965年からということは、もう50年以上。建て替えなければいけないのでは。当時の経済成長の中でどれだけ長期的な未来を描いていたものか。のこす選択をとった時には、建築的価値を本気で問い、賛同・費用をどう集められるかという話次第だし、すでに時間が経過した中で問題が起きてからの運動では遅いだろう。近代建築の維持は難しい。会社で耐震工事がされた時、ごくわずかのスペースでも7,800万円かかった。これだけの建物だとすると、相当でしょう。数十億か。きっと建て替えた方が早い。それでも3年や5年にかかるのではないか。建物を立て直す場合、今の時代感覚でいえば、自然に馴染むものが良い。

—— **仮にこの建物を取り壊して他の建物を造る時、住友常盤住宅地からの景観に配慮して欲しい**

近隣に実家があり、ここから深沢小中に通ったが、この住宅地から野村総研の白亜の建物が真正面に見えて、この住宅地の景観の大きな部分を占めていた。小学校低学年の頃は、走行音がこだまして聞こえる湘南モノレールの駅だと思っていた。学校への通学路の途中である梶原口から、野村総研の社員がタクシーに相乗りして敷地に出勤する姿を、良く目にしていた。建物が健在なのと遠目にしか見えないので、つい数年前まで廃墟になっていることを知らなかった。仮にこの建物を取り壊して他の建物を造る時、住友常盤住宅地からの景観に配慮して欲しい。（問い合わせフォームより）

—— **わけて共同で考えるべきでは。ひとつの団体で抱えるのにはかつてよりパワーが必要**

大きすぎる問題に対して、ひとりの人間が扱いきれないように、現時点では、規模問わず、ひとつの企業では難しいのではないか。複数の企業や市民を交えた共同利用でないと取り扱いに困るのでは。全体では48,700坪だそう。大きすぎる事実は、数字だけではわからない。

委譲スキームが重要。どの範囲を販売あるいは貸与とするのか、分譲もあるのか。山は住民と企業と行政とで共同で守っていくべきでは？減築や、山を山に戻すような方向もありではないだろうか。

普段使いをしていた「わたしたち」が思うこと

素晴らしい自然への玄関口なのに使えない。喫緊課題はトイレと駐車場

—— 近隣で最も利便性の高い自然公園は、表門から入れない状況が続いている

1年前にコンクリートが落ちていたのを発見し、通報をしたところ、使用禁止となってしまった。結果、みんなで集まれる自然豊かな場所が無く困っている。今は裏山からグラウンドには入れるものの、車が登ることができないので、イベントも普段使いも叶わない。今は中央公園などを使っているが、最も利便性の高い公園はここだった。車で子供たちの送り迎えができ、使い勝手の良い場所。一日も早い開放をお願いしたい。

ドッグランが切実にほしいという話も聞いた。大型犬の散歩プレイスでもあった。犬の訓練をしている人々もいたが、ほかに場所を移したとすれば、適切な活動場所がないと問題が起きることもあるのではと気になる。

—— 環境は多くの人を使い続けることで守られる。維持管理は協力したい

たった1年でこれだけ生い茂り、なんだかわからない場所になってしまうのは衝撃だ。かまくら子育て支援グループ懇談会には、自主保育を長年やってきた園舎を持たない7団体・150名ぐらいが参画している。野村跡地は生活の一部であり、家のような場所。ほぼ毎日9-17時に利用してきた。野村総研跡地は、長い期間、ほんの1年前まで、20家族x3団体、60家族ぐらいが活用していた。茶室跡では火を扱う学びを、冬は小さな池が凍るのでスケートも。夏はプールを置いて。ムカゴの実の子供のおやつとして。良い冒険遊び場だ。

結構な落木や、ぼうぼうの草。あれだけグループのメンバーが草を刈ったり、手を入れたりしていたのに。たった1年弱でのこの変化はショッキングだ。敷地内にある茶室跡周りは、日当たりがよく、平らで、木工やウォータースライダーやターザンロープなどもあった。維持管理は協力したいし、何か良い案が見つけれたらと思っている。

—— 喫緊かつ長期的な課題はトイレと駐車場の開放

トイレが使えないことは死活問題。グラウンドを使っていた野球やラグビーの子供たちも、練習場所がなくて困ってしまった。特にラグビーは女の子の参加も多く、トイレが使えないために、活動そのものを継続できない。今は数人で重い荷物を持ち、山を上がっている。駐車場が使えないと道具を運ぶことができない（ウェブサイトを通じて山をボランティアで整備している団体からも同じ問題が報告された）。橋の問題が難しければ、橋の手前までを臨時駐車場にしてほしい。作業用具などを搬入するために自動車をつかいたい。人と道具は右手の歩道を利用させていただけないか。

行政の担当課の引き継ぎによるものか、時代の変化なのか。どう活かしていくべきかという課題共有は行われず、最近では単純な維持管理となってしまった。かつては自主保育の支援として野村総研跡地の利用を認めるというスタンスもあったが、今は代替案もない。これまでの状況を知らない人々だけでは継承されない危機感がある。今後、どんな状況でも、道と駐車場とトイレは市民にも開放されることは、最低条件としていただけないか。

正門が閉鎖された状況から思うこと

禁止とは。注意とは。自己責任力を持とう

—— これからの世界の中で、危険に対しての処置の仕方はそもそも議論すべき

橋が通れないのは、何かあった時に責任問題や訴訟等になるし、クレーマー対応としても当然だろう。しかし、橋の下を通るときに、「ヘルメットを被り、一時停止し目視確認の上、危険を認識した上で通る」といった注意喚起看板の設置も検討に値するのでは。「自己責任」について考える姿勢でありたい。「コンクリート欠片が落ちた。橋が危ない」と言われただけの時には不安と恐怖を感じてしまう。人工物については問題や場所が特定できれば冷静に対処できる。

何か問題があると、すぐ閉鎖、封鎖、問題が起きないように…としていると、管理仕事もいくらでも増えてしまい、疲弊してしまうのではないかと。本当にやるべき仕事に労力を投じることができず、無駄な仕事ばかりが増えてしまわないだろうか。少子高齢化の時代に、高度成長期時代に作られた構造物が、これから老朽化していく。その時に、問題があるたびに、全部封鎖では行政も住民も立ち行かなくなる。この先、ちょうどいい具合を求め、勝手にやらせてくださいという感覚がないと息苦しくなる。

江ノ島の外海側に「立入危険（県土木事務所設置）看板」がある。その先に素晴らしい岩場がある。今回の橋に言い換えたなら、「立入危険。古い橋桁や建物ですので頭上や足元にご注意ください」というもの。江ノ島の場合、入ったら危ない、責任は取れないから自己責任でというメッセージ。危険や注意は示した方が良いが、行政は「大丈夫」とは言えないでしょう。絶対事故が起きないなんて誰も言えない。禁止と危険の違い。

—— 海外での経験談から感じる許容と自己責任。大人の責任も変わらないといけない

南米での経験。事件は日本に比べいろいろ起こるのだが、「人とのつながり」や「これが私のスタイルであり、価値観」という点は日本より素晴らしいと感じた。日本では、セコイことを、ガチャガチャ言うものではない。と感じることが多すぎる。

パリでは、「大人の自己責任文化」があることを感じた。日本では電車の中で、次の駅名や携帯電話はお切りください、などと、細かい指示が出される。パリの地下鉄では何もアナウンスされない。駅で降りるのは、自己責任。「日本の電車は5歳児扱いされているように感じる」とフランスの知人が言う。日本のきめ細かいサービスの質は大切だが、絶対にクレームが出ないように完璧な仕事を絶対とするのではなく、良い意味での大人の自己責任文化を、この鎌倉に育めたほうが健全ではないか。

橋は調査予定とのこと。いつ解決されるのか。本質的な解決は難しいと思う。調査・工事にはお金がかかるが、日常の活動は金銭的な利益を生むものではないだけに悩ましい。取り組むインセンティブは薄いと思われる。だからこそ対話が必要とも。行政判断は時間を要する問題が多いだろうが、スピードを求めたい。

企業が誘致された時のわたしたちの関わり方を想像する

働きたくなる、学びたくなる場。 大人も子供も学びを実践できる場をつくってみたいか

—— ここで働きたい、ここに住みたいという姿を共に考えたい

住民が入れないようなクローズな場とはしないで欲しい。例えば、企業が寮をつくり、住まうと想像してみる。合宿や研修センター的な活用であれば、寮も良いかもしれない。ただ、会社も寮も、常に同じ場所で、同じ人間関係というのはストレスが高いか。企業だけのクローズな場では難しいだろう。若い人なら楽しめるだろうか。多くの人との関わりが生み出されれば可能性が広がるのでは。周辺をはじめとした住民と共同で使える開かれた場だといい。小さな村をあたらしくつくるような感覚で。

—— 有料の施設だとしたら。住民が安く利用できないと難しい

企業が一時利用や合宿を、住民も利用できるだろうか。企業側にもメリットが必要だとは思うが。高い社会貢献性や地域との関わりとして誰もが認めるような企業側の提案があれば歓迎したい。そんな目線が条件にもなるのではないかということを伝えておきたい。

—— 新しい学びの場であると、地域の学びを豊かにすることができる

例えば町の中でドローンを飛ばせる場所を見つけることは、とても難しい。「開放区」として、ドローンを飛ばせる場所になるといい。四国徳島などでは、4箇所の特解放区があり、規制と自由をうまく共存させている。ドローンが飛ばせる学びは、“未来の学び”。そういった場は地域の学びを豊かにできている。

—— 不便であることをうまく扱える人たちもいる

ロッククライミングパークとして野村跡地を活用してほしい。野村跡地の使われてない山の部分など、クライマーならば活かせる。鎌倉の寺社仏閣に良い岩場があるのだが、それはさすがに使わせていただけない。良い岩場はいっぱいあるし、クライマーは喜んで行ってしまう。自分たちで整備や開発することも、大好き。宿泊施設があれば、世界大会だってできる。

切り離された場としてのリゾート化はよいかも。Wi-Fiもテレビも入らないリゾート地があり、人気だと聞く。

—— 火を囲んで語りあうことができる。温泉もね。そんな場であつたらきっと豊かになる

マインドフルネス観点でも重要なこと。例えば、葉山にある星山は5,000坪ある山を切り開いて、人々が使えるようにした開拓地。「火がおこせて、自然の中で過ごせる場所は、関東のこの辺りでは本当になく貴重な場所」と星山スタッフの方は言う。そういった自然の中で学べる場所が今後必要だと思う。火と空と自然の教育。未来の教育が行える場。さまざまな年代層が混じり合う。人間が磨かれる。

温泉が欲しい！ボーリング調査してはどうか。海が見えて、屋上スパで温泉があり、自然がある。みんな泊まりに来る。世界中から人が集まるリトリートプレイスにも。昼間は海へ。遊びと学びを考える場にふさわしい。

—— 自然の遊びの場は大人も子供も必要だ

グランピング施設をぜひ作ってほしい！管理人としてぜひ働きたい。子供も山で遊ばせたい！

—— 分離分断しない。世代が多様に同時に学べる可能性がここにある

少子化と予算削減の中で、さまざまな子供たちの活動を小学校に集約しようとしているようだが、このままでは人間関係が学校に偏りすぎてしまう。学年、小学校、幼稚園、保育園ごとという分断。青空保育では学年や関係性が入り混じる。自然の中での遊びと学校の校庭での遊び、双方を大切に。そこで育まれる子供の遊び方や成長や発育は、まったく違うもの。小学校への一元化は、過度な合理性により失われるものも多い。

—— 周辺環境はもっと活かせる。行政や企業だけでは難しいと思う

畑があるといい。今みんな藤沢市や横浜市など、畑を借りた子供活動のために、他の町に出かけているケースが多い。今、銭洗弁天の裏の畑を借りて子供たちの活動をしている。肥料を持参するだけでも大変。野村跡地に畑がある場合、駐車場があって、車で道具類を運べるのが期待される。

—— 近隣と組み合わせて取り組むべき。住居と職場の問題が見えてくる

近隣の分譲団地に住んでいる。高齢者が多く、入居者が少ない。この状況がどうにかならないかと思っている。10年ごとにリノベーションしていて、46年経っているが、100年まで大丈夫と言われている。野村跡地で働く人が生まれれば、職住接近で住みたい人が現れるのではないか。野村跡地の使われ方とセットで見て欲しい。

—— 鎌倉野菜としてたけのこを販売できないの？

たけのこが採れて、売れるといいなと思う。野村跡地はたけのこを取るの禁止。活動中、つい偶然採れてしまうと、「どうしよう」とお母さんがオロオロする。収穫量を取り決めて公認のもと行えると良いだろうに。ちなみにタチンダイの竹やぶは県の管理で、活動をする際には横須賀まで鍵を取りに行き、1日で戻さなくてはならない。利用は現実的でないと感じている。

—— 森のようちえんをつくっていただきたい！先生は地域にすでにいる

青空保育のお母さんたちの卒業者で、良い保育者がたくさんいる。森のようちえんを作っていただければ、担い手となるお母さんはたくさんいる。教育の仕事を生み出せる。

—— 地域の人が何度も行きたくなる、遠出の人も行きたくなるような空間となって欲しい

「泊まれる・くつろぎ・つなぎ・楽しい・アクティブ」に。オールラウンドな万能空間はどうだろう。

- ① カフェ+本屋（図書館）。畳カフェ（蔦屋書店または武蔵野プレイス図書館のような）
- ② 運動して充電できるスポーツジムのな場所・自転車で手動充電も
- ③ キッズが思いっきり遊べる場所 ④ アトリエスペース・芸術大学 ⑤ 足湯・温泉
- ⑥ ○○教室 ⑦ 泊まる場所 ⑧ 仮眠のできる場所 ⑨ 展示会場

—— 図書や遺跡の公開施設として利用できるのではないか

市民以外でも入館 OK な開かれた図書館にして、屋上からの眺めを多くの人を楽しめれば…ヨーロッパの図書館みたいにキッズスペースがあったり、お年寄りやタダで飲めるコーヒースタンドがあったり、セルフの食堂スペースがあったり…なーんて、オランダで実際に行った図書館を思い浮かべて書き綴ってしまいましたが、それとなく民度の高さが感じられる図書館だと市民としても誇らしいと思う。

図書館という意見は、オンラインでもいただいた。今後図書館や博物館について考える機会になればと思う。現状、近代資料等、蔵書を閲覧しやすい状況にあるようには見えないし、そもそも発表できていない歴史資料も多々あるだろう。利便性の高い場所に分署を持ち、少々行きづらい場所であっても、マニアックな資料を収め、博物館的な機能も持つのはありなのではないか。今世紀、書店や図書のあり方が変わってきたように。利便性と土地性は今後さらに変わっていくだろう。

—— 住民運営で作り上げていく「泊まれる伝承の場」

今年、取り壊されてしまった犬猫病院跡のバウハウスの家具と建具を、緊急避難として個人で倉庫を借り所有している方がいる。将来的にその家具と建具を使って、泊まれる宿泊プレイスを作るといい。鎌倉の中では、様々な相続等の経緯の中で、不要となるが廃棄するには勿体無い、近代の家具や家や建具が、今までもこれからもどんどん出てくるだろう。それらを、住民がしっかり伝承し、利活用できる場所として、野村跡地に移管できると良い。

住民による自治・保全是「働く・生きる喜び」につながる

大人も子供も、ちょっとはみ出せ！自由特区の検討を進めよう

昔遊びや火を使った遊びなど、できる場所はなくなってしまった。年1回と限定的に開催される里山フェスタは、会場の御谷の森の広場も、住民との関係があり解放されるが、常時とはいかない。

市は管理がきちんとしすぎているのではないか。中央公園や笛田公園は、きちり管理された公園。鎌倉の空き地や私有地、中央公園や笛田公園も管理された場所。市の外には空き地に入れるところも多く。藤沢や茅ヶ崎や周辺地域へと、若い世代が活動場所を求め出ていく事実がある。息苦しく感じる、窮屈である現状は残念。少々はみ出た動きを認め、白黒つけないような、住民による自治特区が必要ではないか。

「はみ出せる」グレーな場を求めたい。使う人が責任をもって管理する必要があるが、それこそが必要なコミュニケーション。鎌倉の子はここで育ててほしいと思えるように。人材も、お金も、様々な活動も、すべて東京や横浜に出してしまうのは仕事だけが基準ではない。青空保育、火を使う、ドローンを飛ばす、大型犬を走らせる…。遊びに厳しい世界だからこそ、のびのびとした自由特区を。そういった住民のための場所であって欲しい。わたし達ができる、自治とはなんだろう。

勝手に誘致企業の候補・条件を住民から検討してみる

どんな企業・団体に来て欲しいか伝えよう

- 「この環境も含めて、考えて下さる企業」に来ていただきたい。広くエリアを共に考えていく
- 企業が一部土地のみを購入・賃貸したとしても、これだけの自然と見事な景観を自分のものにするということ。これは借りている土地だけと言い張ることは許されないだろう
- 周辺地域の管理維持基金（周辺環境への保全基金）への投資を行うことのできる企業(群)。立地は山の一部であり、山を守る基金は必要経費。自然に対する意識が高い企業(群)であって欲しい
- 交通問題について考えを持った企業。無人運転の実証実験もできそうだし、便の悪さを活かしてほしい
- 道路及び駐車場の部分共有は最低条件
- 住民と協定等を結び、共同で考えることのできる仕組み
- 住民との協働事業の実現。サービス利用での住民との協働。食堂・福利厚生・研修施設・第二の人生研修・インターン研修・企業研修・住民マーケティングリサーチ・住民とのオープンイノベーション等
- 社員の職住接近環境の整備への協力。梶原地域など、鎌倉市内の住環境整備や子育て環境の整備
- 森のようちえんの併設。市民利用としての開放
- 鎌倉でのSDGsや地域通貨等、地域社会における実証実験や共創事業
- 住民と共創・協働する、サステナブルなチャレンジをともに歩んでくださる企業(群)
- 住民への部分解放や協働を加速できる企業
- 行政や住民とも共創・協業する意識を持った、共感度の高い企業(群)

具体的な企業名もイメージとしていくつか挙がった。

- ノースフェイス。北から南までの直営店で、各地のアクティビティに応じた展開をしっかりと行っている印象。パタゴニアとノースフェイスに競ってほしい。複数・連合での企業でもよい。アウトドア系の連合だと自然についても考えが見えてよさそう
- パタゴニア
- 万葉倶楽部
- 星野リゾート
- 三浦のマホロバのような大型ホテル
- 生涯学習が行える大学
- 生活クラブ（生活クラブ事業連合生活協同組合連合会）
- サッカー・陸上等のスポーツ施設及び団体

今後のプロセスへつなぐ

問題が起きる前に、動ける住民が、提案し続けるしくみが必要だ

企業誘致が前提にあるいま、野村総研跡地が再開発され、利用できる状態になるには、最低2~3年かかるだろう。プランを組み立てる上で大事なことは「それまで使う」「そのあと使う」の2軸。既に待てないことも起きている。その2つの考え方を整理して、提示することが大切だ。まずは「場所が使える」ようにすること。その上で、不具合や問題を把握しつつ、使い方を考えるべき。これは継続して考えていくべきでないか。

企業に土地が手渡される前に、住民の意向が反映されることが大切。企業に権利移管された後では、住民の意見を出しても、由比ヶ浜の海浜公園のように、重く長い反対運動になることが考えられる。これまでもそうだ、常に課題にあふれている。今、大きな方針が示され、今後の詳細プランとなっていく大切な段階であれば、対話を行っていくべきだ。

—— 企業誘致の条件に住民の意思が一定反映されたとして「決定」方法も大切。どのように決定されるのか。現在、市役所で企画コンペ前のフィージビリティスタディを委託企業にて行なっているようだ。

コンサルティングに関して東京への委託が続く状況に対しては、経済循環として地元を衰退させるリスクがある。この町には委託できる人材が多くいる。しっかりとみんなで受注していこう。この町に「委託できる人」は多いが、実際に「委託できる対象」がほとんど存在していない気がする。個人のポテンシャルは各方面で非常に高いが、こういった内容を取り扱える企業が思い浮かばない。関係の作り方に問題がある。

—— 今回歩きながら、「仮称）みんなのまちづくり協働組合」の必要性を感じ、設立準備を進めている。住民が組合登録にエントリーし、仕事を受注できるように。仕事のクオリティ・コントロールを行う役割とともにある。

そういった仕組みができれば、市役所の仕事を今後アウトソースすることも可能ではないか。オリンピックで、藤沢市の担当は20名。鎌倉市は1名。人員に余裕がないのだとも思う。問い合わせてみると、宿泊先・コンテナ・船を置く場所がないという課題が認識されている。野村跡地は、オリンピックとも関係する可能性がある。

本来は「この市をどうしたいか」。そのビジョンがあり、この地域にはこの役割を、ここはこのテーマを。と明確に最初に示し浸透させるべきだが、そのビジョン創出までのプロセスがうまくいっていない。今、これからを市がきちんと考え示すことが大切。ドライブさせる住民も。行政がリーダーシップをとり、推進しているまちもある。共創の観点で実施できているのか。誰が主体であるか。今回のような活動は重要だ。

今回の課題への取り組みに限らず、問題があるときに、「こうしたらどうですか?」と住民が提案し続けるしくみは必要だ。主体性ある住民活動は推進し自ら行っていこう。

出典・参考

鎌倉市公的不動産利活用推進方針

https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/facility/documents/pubcomme_kouteki_houshin_1_2.pdf

公的不動産の利活用の取組

<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/facility/koutekihudousan-torikumi.html>

かまくらまちづくり市民対話

https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/facility/saihen_h29pre_taiwa.html

野村総合研究所跡地の利用について・野村総合研究所跡地の閉鎖範囲について

<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kyouiku/bunka/shisetsu/nomura/index.html>

鎌倉市公的不動産利活用推進委員会

<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/facility/koutekihudousan-suishiniinkai.html>

野村総合研究所跡地利用 - 鎌倉市 (2011/6/12)

<http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/keiki/documents/masterplan-leading-nomura.pdf>

鎌倉市都市マスタープラン (平成 27 年 9 月)

<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/plan/toshimasu201509.html>

鎌倉市都市マスタープラン 実現の方途

<http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/plan/documents/5jitsugen.pdf>

野村総合研究所 - 廃墟検索地図

<https://haikyo.info/s/1549.html>

仮称) 鎌倉博物館 (埋蔵文化財センター) の整備

<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/keiki/3rd-plan/documents/2144.pdf>

1965

NRI 野村総合研究所『創業の地』

1965 年 4 月 1 日、日本初の本格的な民間シンクタンクとして、株式会社野村総合研究所がこの地に誕生しました。

2001 年 12 月、株式上場を果たし、これを記念して、2002 年にこの土地を鎌倉市に寄付させていただきました。創業精神である『総合性』、『創造性』、『実益性』を象徴した記念碑を建立し、この精神を後世に伝えます。

2005 年 7 月吉日

株式会社野村総合研究所 取締役社長 藤沼彰久

出典：https://blogs.yahoo.co.jp/yokosuka_roland3/20418359.html

2002

野村総合研究所、鎌倉市に研究センター跡地を寄付

鎌倉市が公共的な観点から、広く市民が利用できる文化・学術・芸術振興に資する用途で活用していただくことを希望しております。

2002年3月4日 NRI 野村総合研究所

出典：<https://www.nri.com/jp/news/2002/020304.html>

2002-2010

平成14年(2002年)に寄附を受けて以降、庁内の検討及び学識経験者で構成する研究会での検討を経て、平成15年(2003年)11月に「野村総合研究所跡地土地利用等基本構想」を策定、その後、市民、関係団体の代表、学識経験者で構成する検討委員会での検討により、平成17年(2005年)5月に「野村総合研究所跡地土地利用等基本計画」を策定しました。

野村総合研究所跡地土地利用等基本計画では、跡地に溢れる豊かな緑地を保全活用しつつ、公共的機能と民間機能をバランスよく導入していくとし、具体的公共的機能を「自然」、「歴史」、「美術」の複合博物館・市民活動交流館と定め、その後、平成18年(2006年)3月に「複合博物館・市民活動交流館基本計画(案)」を策定しました。

しかし、本市の厳しい財政状況の中、限られた財源を効率的に配分する上では、その優先順位を見直し、更に、その規模・機能・事業費の縮小や段階的整備への変更、事業実施時期の延伸が重なり、野村総合研究所跡地以外での既存施設の活用等の検討を優先せざるを得なくなったため、再度、平成22年(2010年)2月に「野村総合研究所跡地整備(鎌倉博物館・鎌倉美術館の整備)にかかる今後の基本方針」を策定しました。

その後、その内容にある博物館機能については、規模、機能を縮小し「埋蔵文化財センター」のみの整備等を、美術館機能については、当該地以外での適切な用地・施設の選定と、事業規模に見合った施設内容を検討していくこととしました。

梶原四丁目用地(野村総合研究所跡地)や扇湖山荘は、既存建物が存在していますが、厳しい行財政の状況等から、これらの公的不動産の十分な管理が図れている状況とは言えません。このような状況のため、建物等の老朽化や安全性の低下等が年々進行しています。また、利活用が進まないことにより、敷地内の広大な緑地等の十分な管理に対しても後手に回ってしまっている状況が発生しています。

出典：鎌倉市公的不動産利活用推進方針

2011

この特に描かれている内容はしっかりとわかりやすくまとめられているが、以後10年近く、大きな進捗は見えない

野村総合研究所跡地は、小高い丘で、南に海を、西に富士山を望む、風光に恵まれた緑豊かな土地です。この跡地を市が誇れる文化・教養ゾーンとして活用していきます。

当該地が持つ、緑豊かな環境や落ち着いた佇まいを活かしながら、持続的発展が可能な社会をめざすために、今ある緑は残しつつ自然との共生を図り、既存の建物の再生活を基本とします。

敷地全体の計画段階から市民参画を図り、さらに、維持管理や運営についても市民や関係団体、民間企業の多様な参画を得ることにより、市民の文化活動交流拠点として、また、古都鎌倉の文化情報発信拠点として、発展・継承していくことをめざします。

自然的土地利用は、『多様な自然的体験を通じて「学ぶ空間」として活用する』というコンセプトのもと、緑地の維持管理を学んだり、子どもたちが自然から冒険心や自然への理解力などを学ぶ場として活用していきます。

都市的土地利用のうち、公共的機能は、「自然」「歴史」「美術」の複合博物館・市民活動交流館とし、展示や調査研究機能、収蔵機能を持つとともに、市民活動交流の拠点機能などを備えたものとしします。

都市的土地利用のうち、民間機能は、民間事業者などからの提案を受けながら決定していきます。導入をめざす機能としては、文化・教養ゾーンにふさわしいもの、市民サービスの向上につながるもの、市の財政に貢献するものなどを想定しています。

事業の実施に向けては、複合博物館・市民活動交流館の整備・運営・維持管理に民間の資金や知恵を積極的に活用できる方法を導入していきます。

出典：鎌倉市公的不動産利活用推進方針・野村総合研究所跡地利用について (2011/6)

2018

野村総合研究所跡地の一時閉鎖

本日（平成 30 年 2 月 23 日）午後、野村総合研究所跡地利用者から、敷地内の橋のコンクリートが落下していると連絡があり、文化財課職員が現場に急行したところ、橋の一部が剥離して落下していることを確認しました。現在の状況では、橋の通行の安全が確認できないため、本日付で野村総合研究所跡地を閉鎖する措置を取り、安全が確認できるまでの間、入場を禁止することとしました。

2018 年 2 月 23 日

出典： <https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kisya/data/2018/20180223.html>

予算措置もできたことから、早期の再開を目指し、野村橋の点検、調査等を行う準備を進めているところです。また、その結果をもとに、剥離箇所の修繕等を行い安全性の確認が取れ次第、正面入口からの御利用を再開いたしたいと考えております。

2018 年 8 月 23 日

出典： <https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/soudan/joho/documents/30-92.pdf>

2018

自然環境を生かした利活用(市民への開放を含む)と企業誘致を推進方針として発表。平成 30 年度から公募準備を行い、平成 31 年度以降に民間による利活用を想定。鎌倉市公的不動産利活用推進方針 (2018/3)より。

郊外の環境の良い、ゆったりとした場所(豊かな緑に囲まれた広大な敷地)という立地を生かした高度な研究・開発系等の企業誘致(求心力の高い企業を選定)により、「働くまち鎌倉」の実現を目指す。

人口減少、少子高齢化が全国的に進行し、右肩上がりの成長を目指す社会から持続可能な社会への転換など、社会・経済情勢が大きく変化する中、公的不動産の利活用に当たっては、これまでにない新たな視点を持って取り組むことが必要で、特に民間活力の導入について、従来にも増して積極的かつ柔軟な対応が求められます。これまでも指定管理や PFI など、民間の資金やノウハウの活用といった官民連携を進めてきましたが、これらの公的不動産の利活用に当たっては、民間活力の導入が不可欠で、これまで以上に積極的かつ柔軟な対応が求められます。

このため、この取組において、ここから更に一步踏み出し、本市とともにまちづくりに取り組み、自身の利益の追求だけにとらわれず、鎌倉のまちや地域の価値を高めていくといった理念「パブリックマインド」を持った民間事業者等との連携を目指すこととします。

なお、連携にあたっては、特に鎌倉の魅力である豊かな自然や歴史、文化は、長年の市民活動や市民のまちに対する想いにより支えられてきたものであることを十分に認識し、市民とともにまちをつくり、そして育てていくことにも注力し、市民力の向上や活気のあるまちの実現につなげていきます。

この取組では、このような考えに基づき、全市的な視点を持った公的不動産の利活用を推進するため、利活用が将来都市像やまちづくりに効果・インパクトが期待できる主要な5つの公的不動産については、それぞれに利活用の基本方針を定めるとともに、その他の公的不動産については、利活用の方向性を示すことで、持続可能な都市経営による魅力ある都市創造の実現を図ることとします。また、実施に向けたスケジュールや手法等も具体的に提示することとし、サウンディング型市場調査の実施に加え、経済効果を見据えた定期借地や民間提案制度の導入など、民間事業者のノウハウの研究によりその実効性を高めていくこととします。

出典：鎌倉市 公的不動産利活用推進方針 (2018/3)

https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/facility/documents/pubcomme_kouteki_houshin_1_2.pdf